MIDORI no TOHOKU

みどりの東北

No.64

発行日／平成21年7月
発　行／東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16
TEL.018(836)2192

ホームページ　http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/

「好天の太平山山頂で記念撮影」（第１回緑の山歩（さんぽじゅく）塾 開催）

本年度第１回の森林ふれあい推進事業（愛称「緑の山歩塾」）を開催、自然とのふれあいを楽しみました。

六月十三日、秋田市から望める太平山に市民の皆さんと登山しました。登りは続き天然秋田杉や原生的なブナ林に吹く心地よい風と多くの可憐な花々に癒されながら頂上へ向かいました。頂上からの大パノラマは絶景で、下界には昨年リニューアルオープンし、入館者が五千人を突破した「仁別森林博物館」が見えました。帰りに立ち寄り全国的にも珍しい、かつて森林鉄道で活躍した機関車などを興味深く見学していました。

また、当局と三者協定を締結している仁別森林博物館ボランティア案内人会と支援活動をしているアサヒビール秋田支社との登山会も同日行われました。

トピック

■特集
「森林環境教育の推進」
指導普及課

■美しい森（もり）林づくり
「地域材を活用した公共施設の整備について」
秋田県上小阿仁村

■我が署の隠れた名所
岩手北部森林管理署　「草の湯」

東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

特集コーナー

森林環境教育の推進

指導普及課が行っている各種活動について紹介

指導普及課

春の「緑の募金活動」を皮切りに、子どもたちから大人まで幅広く、森林・林業に対する国民の理解をいただくため、局・各署等においては「遊々の森」等国有林をフィールドに森林環境教育をはじめとした各種の取り組みが計画されています。

また、昨年度は教育分野との連携強化をより一層図るため、社会科の副読本「東北の森林で遊ぼう」を管内五県の全ての小学校に配布しました。

本年度、指導普及課が展開する活動の一端を紹介します。

○仁別森林博物館企画展

昨年リニューアルした仁別森林博物館を拠点にボランティア案内人と連携した企画展等を年四回計画しています。

①山菜展（五月）

一般の方々に山菜の食べ方やまちがいやすい有毒植物との区別などを解説しながら展示を行いました。

山菜展を熱心に見学する来館者

②天然秋田スギ展（七月～八月）

日本三大美林である天然秋田スギをPRするために、天然秋田スギ製品や写真等展示を計画しています。

③夏休みイベント（七月）

小学生の夏休みを利用し、森林博物館の見学、周辺森林での昆虫観察、木工制作体験を計画しています。

④天然秋田スギ絵画展（十月）

小学校児童を対象に「仁別森林博物館から見た天然秋田スギ」の絵画募集を行い、博物館内に展示することを計画しています。

○中通小学校植樹体験等の実施

六月二十二日（月）、秋田森林管理署管内の秋田市河辺岩見山国有林内において秋田県緑化推進委員会、秋田県森の案内人協議会との共催で中通小学校体験植樹を実施しました。

この行事は、東北森林管理局に隣接する中通小学校の五年生児童を対象に毎年実施しています。今年は児童三十七名と教師四名が参加し、亀田秋田森林管理署長の挨拶のあと二人一組になりスギ百本程度の苗を植えました。午後からは、秋田県森の案内人と当課職員による森林の働きや温暖化についての森林教室を行いました。

森林教室を担当した当課職員は、冷や汗をかきながら熱弁をふるい、子どもたちの笑顔と元気いっぱいの姿に、満足感を得ていました。

後日、中通小学校五年生児童から、「まじかで自然に親しむことができ、自然にとても興味を持った」、「私たちも少しずつですが、環境によいことをしていきたい」など前向きな感謝の手紙が当課に届きました。

これらの取り組み以外に「森林の市」の開催、緑の山歩塾（年四回）や中通小学校との環境美化の集い等の開催を計画、実行してきていますが、実行のみの計画にならないよう、各団体と連携を図りつつ、いかに国民の皆様に国有林を提供できるかを考え、森林環境教育をはじめとした各種イベント等を創意工夫しながら安全に取り組んでいきたいと考えています。

植栽終了後、満面の笑顔で記念撮影

美しい森林づくり

地域産材を使用した公共施設の整備について

上小阿仁村　産業課
林務商工班係長　小林　博隆

上小阿仁村は、秋田県のほぼ中央に位置する南北に長い山あいの村で、二十の集落に千二百五十世帯二千九百四十五人（平成二十一年四月末日現在）が暮らしています。

総面積の九割以上を山林が占める当村は、古くから優良な天然秋田スギ材の産地として知られています。東京・上野の国立科学博物館地球館に展示されている天然秋田スギは、当村の国有林に生育していたものです。

このような豊富な森林資源を背景として、戦後の住宅復興期には、当村の林業・木材産業が大いに栄えましたが、材価の低迷や資源状況の変化、過疎化、高齢化等により、かつてのような活気が失われつつあり、今後は、生育の途上にあるスギ人工林を活用して、林業・木材産業の活性化を図ることが当村の重要な課題となります。

このような中、当村では、道の駅かみこあにに併設している秋田杉の館、村立小中学校、村営住宅、公民館などの公共・公営施設を整備する際、構造材や内装材への地域材の利用を通じて、地域材のPRと利用推進に努めてきました。

今回は、地域住民のコミュニケーション活動や研修、地域住民と地域以外の方々との交流の拠点として、平成二十年に長信田集落に整備した長信田交流センターについて紹介します。

福舘い樹い樹交流センター

地域材をふんだんに使用（秋田杉の館）

センター建設の財源として、県補助事業「秋田の木・利用推進木造公共整備事業」（「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」）を活用したほか、過疎対策事業債、地元負担金を充てました。

設計にあたっては、バリアフリー適合、無落雪屋根など当村の実情にあわせた工夫を行いました。

また、村の工事では初めてとなるコンストラクション・マネジメント方式により施工することとし、工事を九工種に分離発注した結果、零細な地元業者による受注が可能になりました。地域材の使用については、村が地元から直接調達した木材を建築工事の受注者に支給する方式を採用することで担保しました。

約四ヶ月の工期で完成した木造平屋建のセンター（建築面積百九十八・三八七㎡）は、地元の秋田スギ材をふんだんに使用（五十三・五㎥）することにより、利用者に地元材の良さを大いにアピールしています。

これからも、豊富な森林資源を抱える当村の特色を活かし、地域材の需要拡大を通じて、林業・木材産業の活性化に向けた取組を進めていきたいと考えています。

完成した長信田交流センター

【森のお話】
…コラム…

雪に負けないスギを創る

気象害抵抗性育種事業の最新の成果

森林総合研究所　林木育種センター　東北育種場
宮下智弘

本州日本海側の山間部では、積雪量が一mを超える多雪・豪雪地帯がほとんどです。このような地域において、林業は主要な産業の一つとなっていますが、多量の降雪によって植栽木が雪害を受けることもしばしばです。中でも根元曲がりによる被害は深刻です（写真1）。なぜなら、この被害は雪が多ければ必ずといって良いほど発生し、材価が最も高く、かつボリュームもある根元部分の幹が湾曲しているため収穫されず、山に切り捨てられることが多いからです。根元曲がりによる経済的損失は多大なものです。

写真1　根元曲がり

このような被害を育種によって軽減するため、気象害抵抗性育種事業が開始されました。この事業によって、雪害激害地から根元曲がりの少ない雪害抵抗性候補木（写真2）が選抜されました。候補木はたまたま根元曲がりが少なかった可能性もあるので、それを調べるために候補木のさし木苗や実生苗を雪害の発生しやすい林地に植栽しました。このような試験地を検定林と呼びます。検定林の調査は定期的に行われ、一本一本の植栽木に対して根元曲がりの大きさや成長、枯損の有無等が詳細に調査されています（写真3）。このような過程を経て、平成十二年度までに根元曲がりが少なく成長も良好であった実生家系十九品種、さし木クローン八品種を開発しています。しかしながら、これら雪害抵抗性品種の本格的な種苗生産を行うためには、遺伝的多様性等も考慮すると品種数をさらに増やす必要がありました。

写真2　雪害抵抗性候補木（写真中央）の選抜

写真3　検定林調査の様子

そこで森林総合研究所林木育種センター東北育種場は、東北森林管理局、関東森林管理局、秋田県、山形県、新潟県と連携して新たな雪害抵抗性品種の開発を行うことにしました。平成十二年度の品種開発以降に新たに調査を実施した多数の検定林データも加えて解析し、前回の開発品種と同等の能力を持つ実生家系十品種を選定しました（表）。これらの品種は関係機関の了承のもと、森林総合研究所新品種開発委員会に申請し、平成二十一年二月に新品種として正式に認定されました。

根元曲がりを防ぐ最も簡単な方法は品種を選んで植栽することです（写真4）。これら開発品種は、根元曲がりが少ないことはもちろん、生存率や初期成長も優れており、積雪の多い地帯に最適な林業用種苗として大きな期待が寄せられています。

表　今回開発した品種一覧

選抜地県名	品種名
秋田県	耐雪秋田営14号
	耐雪秋田営121号
	耐雪秋田県19号
	耐雪精英樹角館1号
山形県	耐雪山形県36号
	耐雪山形県46号
	耐雪山形県68号
新潟県	耐雪前橋営13号
	耐雪前橋営107号
	耐雪新潟県27号

写真4　品種による成績の違い
品種毎に列状植栽した検定林。
右列の品種は優れた成績を示しているが、左列の品種は根元曲がり・成長ともに劣っていることが観察できる。

計画課

委託調査成果発表会を開催

六月十九日、イヤタカ（秋田市・民間施設）において、「委託調査成果発表会」が開催されました。

局職員をはじめ近隣署からも聴講

局発注の各種の調査事業の実施にあたっては、委託形式で行われており、担当者や担当課などに情報が限られるなど職員間に十分に共有されていない実情にあります。

これらの情報共有を図ることは円滑かつ適切な業務運営を行う上で極めて重要であることから、職員の資質向上や視野の拡大を目的に開催されました。

当日は、委託調査受託者（四社）のご理解・ご協力により、「白神山地周辺地域自然再生調査」など六件の委託調査について発表があり、局署職員五十名が聴講し、各発表後に活発な質疑応答が交わされ盛会のうちに終了しました。

今後も各職員の日頃の業務に役立つよう委託調査など職員間の情報の共有、視野の拡大に努めて行きたいと考えています。

発表いただきました各委託調査受託者の皆様には、開催にあたり全面的なご協力をいただきまして厚くお礼申し上げます。

受託者協力の下発表が行われました

米代西部森林管理署

国有林で体験林業を実施

五月三十日（土）米代西部森林管理署管内において、東京に本部を置く「JUON NETWORK(樹恩ネットワーク)」の方々の体験林業が実施されました。JUON NETWORKは都市と農山漁村の人々をネットワークで結ぶことにより環境の保全改良、地方文化の発掘と普及、過疎過密の問題の解決に取り組み、自立・協助の志で新しい価値観と生活様式を創造していくことを目的とした特定非営利活動法人です。

この会の催しは、昨年度も藤里町管内で行われ、当署管内の岳岱自然観察林の散策をはじめ民有林内へのブナの植林などを実施し、今年度は「是非林業の体験を」と藤里町にある「ぶなっこ教室」を通じて依頼があったことから実施されました。

白神山地世界遺産センター藤里館前に集まったJUON NETWORKの方々七人、ぶなっこ教室三人、地元テレビ局から二人の計十二人は早速三十分ほど離れた真名子森林事務所管内の国有林へ向かいました。現地は午前中の雨がカラリとあがり、絶好の作業日和で、当署の職員から作業箇所の状況や使う道具の説明などをうけ、作業に取りかかりました。参加者のほとんどの人がノコギリを初めて使う事もあり、危なっかしい手つきでツル伐りや除伐などを始めましたが、約一時間の作業が終わる頃にはすっかり道具にも慣れ、きびきびとした動きを見せる方もおりました。作業が終わり手をかける前の林と見比べて「こんなにきれいになってるとは思わなかった。」などと

慣れない道具に苦労しながらも作業を実施

治山課長の説明を興味深く聞く参加者

感想を述べあっていました。

その後、参加者は治山の渓間工施行地を、治山課長の説明を聞きながら見学しました。参加者からは、張り芝や間伐木を利用した柵などについてたくさんの質問が出されましたが、熟練の治山課長からみんなに分かり易い説明がされ、感嘆の声が上がっていました。

金木支署

不法投棄クリーン作戦を実施

六月十八日（木）、五所川原市十三、五月女萢（そとめやち）防風保安林において、平成二十一年度国有林野流域アクションプログラムメニューの一環として、不法投棄されたゴミのクリーン作戦を実施しました。

総勢３９名が参加したクリーン作戦

この作戦には、地元自治体の五所川原市役所四名、森林ボランティア巡視員十四名、津軽白神森林環境保全ふれあいセンター二名、森林技術センター四名、当支署十五名の総勢三十九名が参加しました。作戦実施場所の不法投棄されたゴミは、冷蔵庫・テレビ・掃除機・古タイヤ・廃プラスチック・ストーブ・空き瓶・空き缶等、日常生活や業務上で発生する多種多様なゴミが五月女萢防風保安林内に散乱していました。

参加者は、海岸防風林をきれいにしようと、ゴミの撤去作業はもちろんのこと、海から飛来してきたゴミを松林から拾い集めるなど、額に大粒の汗をかきながら懸命に作業を行いました。

ゴミの多さには驚かされました

当日撤去した量は二トントラック三台分もあり、参加者一同、ゴミの多さに驚きと怒りを感じていました。その後警告看板を設置し作業を終えました。

今後も、地元自治体、森林ボランティア巡視員と連携を図りながら、美しい森林づくり、美しい海岸林に蘇えさせる活動により、不法投棄防止のＰＲ活動及び保安林の公益機能の保全に努めて行きます。

岩手南部森林管理署

管内二団体と「遊々の森」協定を締結

当署では、本年度森林環境教育の推進に向け、管内二団体と「遊々の森」の協定を締結（みどりの東北63号で紹介）することとしておりましたが、六月十七日当署署長室において協定締結を行いました。

当日は、西和賀町「カタクリの会」から瀬川強会長及び北上市のＮＰＯ法人「わが流域環境ネット」からは及川一代表幹事が来署、岩下署長と協定書を取り交わしました。

協定期間は五年間で、この間国有林内において森林教室等の活動を通じ、森林の多面的機能を学ぶ場とするものです。

カタクリの会は西和賀町貝沢地内の二十四・三七haを協定、名称を「星めぐりの森」（星とは、宮沢賢治の童話等で命や輪廻と次世代をつなぐ役割の意味）としました。わが流域環境ネットは北上市和賀町の入畑ダム近くの百三・一八haで協定地域内にある湿地の名称をとり「ハバラ谷地 遊々の森」とそれぞれ命名しました。

各団体とも以前より自然環境教育実施をはじめ国有林内の森林パトロール等の実施をしており、今回の協定締結により、植樹・育樹等の体験学習による自然再生活動や動植物の観察会による自然環境保全活動の啓発等更なる活動の充実が期待されるところです。

岩下署長との協定書取り交わし
（写真手前が及川専務理事）

総務課

平成二十一年度

東北森林管理局署職員定期表彰式

～永年のご尽力とご苦労に敬意と感謝～

六月十七日（水）平成二十一年度東北森林管理局署職員定期表彰式が秋田市のイヤタカにおいて開催されました。

本年度の受章者は、一級精勤賞（勤続三十年以上）二十二名、二級精勤賞（勤続二十年以上）十一名、計三十三名の皆さんです。表彰式は、山﨑局長をはじめ、受章者のうち二十八名（同伴者一名）と、来賓、局関係者が出席して行われました。

冒頭、山﨑局長から、「栄えある表彰を受けられます皆様は、永年に亘り幾多の困難を乗り越え、国有林野事業を遂行してこられた方々であり、そのご尽力とご苦労に対し、心から敬意と感謝の意を表します」と式辞があり、引き続き局長から受章者一人一人に表彰状が授与されました。

その後、林野庁長官（代読廣田総務部長）、佐藤秋田林友会副会長、乾三陸森の会会長から祝辞をいただきました。

最後に、受章者を代表して盛岡森林管理署の仙北谷彰氏が受章のお礼を述べるとともに、「本日の受章を新たな出発点として、名実ともに開かれた「国民の森林」の実現に向け、国有林の適切な管理運営と豊かな森林づくりのため、更に努力する。」と決意を述べられました。

一級精勤賞を受章された皆さん

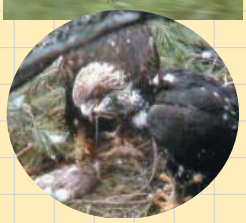
答辞を述べる仙北谷盛岡署次長

二級精勤賞を受章された皆さん

～森の仲間の裏話　4～

へぇーそうなんだ　初心者マーク

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長　青山　一郎



イヌワシ幼鳥（別名：三星鷹）

鳥たちの巣立ちの季節です。厳冬期から繁殖に入るイヌワシも同じです。

うなじの色からゴールデンイーグルと命名されてはいるものの、遠目には黒一色に見える親鳥とは対照的に、若ワシの翼と尾には白斑が鮮やかで、三星鷹とも呼ばれます。

全国的に繁殖率低下が危惧されている中、今年も局管内の山からは三星飛翔の便りが届きました。

ところで、この三ツ星、やがて親元を離れて放浪生活を送る際、なわばりを厳しく防衛するよそのペアに「子供だから大目に見て」とアピールする、いわば初心者マークで、実際、若鳥への激しい攻撃は見られません。

イベント情報

イベント名　第３回「緑の山歩塾」天然秋田スギを巡る

期　　日　平成２１年８月２１日（金）
実施場所　秋田県能代市・上小阿仁村
国有林に生きる天然秋田スギ（コブ杉ときみまち杉）を観賞し、天然秋田スギの利用について施設見学を実施。
募集人員　40名（応募多数の場合は抽選となります）
参　加　費　大人3,500円、子供1,500円
集合場所　**秋田駅東口**（７：２０）
申込み方法　ハガキ又はＦＡＸに住所、氏名、生年月日、電話番号を記入し、下記までお申し込み下さい。
申込み締切　７月27日（月）
そ　の　他　昼食は持参してください。

「金勇」１１０畳の大広間

「森の巨人たち百選」に選ばれたコブ杉

【参加申込みお問い合わせ】
東北森林管理局
指導普及課　緑の普及係
秋田県秋田市中通５丁目９番１６号
電　話：**０１８－８３６－２２１８**　ＦＡＸ：**０１８－８３６－２０１２**
ＵＲＬ：http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku

イベント名　「晩夏の白神山地での藤里駒ヶ岳登山」

期　　日　平成２１年８月３０日（日）
実施場所　秋田県藤里町　藤里駒ヶ岳
募集人員　20名
参　加　費　大人3,500円、子供2,000円（中学生以下）
（保険料、記念写真代含む）
受付開会式　秋田県藤里町　藤里センター　８：１５～
申込み方法　往復はがきに、「イベント名」を明記の上、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、下記までお申し込み下さい。
申込み締切　８月１２日（水）必着（応募多数の場合は抽選となります）
そ　の　他　昼食は持参してください

オヤマリンドウ

【参加申込みお問い合わせ】
藤里森林センター　　住所：秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3
電話：**０１８５－７９－１００３**
ＵＲＬ：http://www.shirakami.or.jp/~fujisatofc/

森林官からの投稿

「海岸林物語　今昔」

庄内森林管理署　遊佐森林事務所
首席森林官　武藤　淳

私が勤務する庄内森林管理署遊佐森林事務所は秋田・山形の県境に位置し、海（庄内海岸）から山（鳥海山）までの広範囲（約２１千ha）を管轄区域としています。

管内の北端に位置する鳥海山（2,236m）は、東北屈指の高山で国定公園にも指定されており、モリアオガエルの生息地となっているなど貴重な自然の宝庫です。

モリアオガエルの生息地でもある
鳥海山鶴間池

海には日本海沿岸に続く白砂（庄内砂丘）を緑濃いクロマツ林（庄内海岸林）が、北は遊佐町吹浦から南は鶴岡市湯野浜までの、延長約34km、幅約１kmにおよび、海からの風や砂から地域住民の生活を守り続け現在に至っています。

しかし、海岸林は一朝一夕に形成されたわけでなく、草木も生えぬ荒涼とした砂丘地に暮らす人々の長い苦難の歴史があり、それに立ち向かった先人たちの血のにじむような努力と挑戦によって築かれた歴史遺産なのです。

ところが、この歴史遺産にも人知の及ばぬ受難の時がやって来るのです。

昭和50年代に松くい虫被害が発生そして拡大。平成10年11月には記録的な大雪による雪害が発生し、海岸林の荒廃に拍車がかかったのですが、この雪害は災い転じて福となったのです。

海岸林に無関心だった地域住民が、あらためて海岸林の意義を考え、先人たちの偉業をふたたび認識させるきっかけとなったのです。

「今私たちができること」・「今私たちがしなければならないこと」、そのために各種ボランティア団体、小・中・高校、地域の企業や住民そして行政のバックアップ、まさしく産官学の共同事業体が完成したのです。

特に「万里の松原自然観察教育林」を核とするボランティア団体の活動は、今までも各種紙面で紹介されており、全国に誇れる活動内容だと思います。

今年もすでに、一般住民を対象にした「山をきれいにウォーキング」が４月にスタートし、年間を通じたメニューが計画されています。

山をきれいにウォーキングには沢山の市民が参加

また、学生を対象にした体験学習が、５月28日酒田北高校により実施されており、今後も山形県・酒田市・遊佐町等と連携し、小・中・高校生を対象に海岸林をフィールドとして行われます。

そのほか、諸々のボランティア活動が計画されていますが、森林官として地域住民の一員として、企画立案・現地指導等これからも積極的に関わっていきたいと考えています。

酒田北高校生徒による体験学習

庄内署としても、海岸林造成や松くい虫防除（１ヶ月に及ぶ被害木調査は死のロードと呼ばれています。）を継続実施していますが、行政の手の届かないところをこれらボランティア団体等の協力を得ながら、次世代に誇れる海岸林づくりに励んでいきたいと思います。

鶴間池でのふれあい推進事業

是非一度「万里の松原」をのぞいて見て下さい。絶対感動します。

山（鳥海山）関係については、次回乞うご期待を。

我が署の隠れた名所

岩手北部森林管理署

「草の湯」

（見所の概要）

風薫る初夏、地熱発電の建設現場に車を止め、ときおり野鳥のさえずりを聞きながら、ブナの淡い緑とオオシラビソの濃い緑がつくりだす絶妙のコントラストを楽しみながら八幡平植物群落保護林を歩いてみる。

歩きはじめて30分、水芭蕉の葉が茂る湿地帯を通り抜け、額に汗がにじむ頃硫黄の臭いに気づく。沢を下ると、誰かがかたわらの石をあつめて作り上げたのであろうか、硫黄花が埋もれたコバルトブルーの「草の湯」が登山者の目に飛び込み、誰もが思わず歓声を上げてしまう。30度と少しぬるめの温度であるが、登山で疲れた足を入れ、疲れた体を癒すには十分である。

昔、「草の湯」から流れる鉱泉は湯花の材料ともなっていたそうである。

交通アクセス

・国道282号を経由して安比スキー場より市道安比兄川線を車で40分、畚部林道の標識に入る。作業道を経て、樹林帯を徒歩で20分。

注）作業道の標識はないので注意が必要。

お問い合わせ先

〒028－7534　岩手県八幡平市荒屋新町41-8
電話番号：050－3160－5895　　FAX：0195-72-2300